

これからも平和を願つて

弘前市立東小学校 落合さくら

この本は、爆心地付近で被爆し、きせき的に生き残った米澤鐵志さんの体験した話です。米澤さんは五十年以上、被爆体験の語りべを続けてきた方です。

米澤さんが小学生の時、太平洋戦争が始まりました。今までおやつとして食べていたキャラメルはなくなり、お弁当は、白いご飯に梅ぼしの日の丸弁当。バナナや砂とうもなくなりました。好きな食べ物をがまんしなくてはいけないことは、とてもつらいと思います。

八月六日、そ間先から広島の祖父母の家まで、母と一緒に荷物を取りに行くため、汽車に乗りました。その時、原爆が落とされ、米澤さんは電車内被爆者になってしましました。

汽車が動かなくなってしまったので歩いて移動しますが、その時、前を歩いている人が、髪の毛まで火がもえ移つたり、三角定規のような大きなガラスのはんが背中にささつている人を見ました。助けてあげたいけど自分もその場にいたら、逃げることに必死になつていたと思います。それから激しい

はき気におそわれる急性放射線障害の症状が出てとても苦しいうでした。のどがかわいて、川の水を飲もうとするときの水を飲んだ人たちがたくさんいたおれてしまふ様子を見て米澤さんは水を飲むのがまんしました。のどがかわいている中で、たくさん歩かなくてはいけないので本当に苦しかつたと思います。

八月十五日、戦争が終わりました。父が帰つて来る、ふだんのくらしがもどつてくると思つてほつとして涙を流した母を見て米澤さんもうれしくてたまらないようでした。私は戦争は負けてしまつたけれど、家族みんなでまた元気にくらせるのでよかつたと思います。

その後、米澤さんは、髪が抜けたり、高熱がでて、はき続けていて、回虫が出てきたり、とても苦しそうでした。九月一日、母が亡くなりました。三十四才でした。十月九日には一番下の妹が「才になる前に亡くなつてしましました。私は、大切な家族を一人も失つてしまつてとてもかわいそうだなど

思いました。

米澤さんは生き残った理由をあとから資料を見て知りました。米澤さんが乗っていた電車は当時はめずらしい鋼鉄製だったので放射能がある程度防ぐことができました。また、電車は被爆したしゅん間、当時広島で一番高い建物の横にいました。このビルにさえぎられたおかげで直接熱線を浴びずやけどもせずにすんだということです。命は助かつたが、髪が

抜けたことで転校先の学校でからかわれたり、いやなことがあつたと思います。米澤さんは苦しい思いをしたのに、学校でもいやなことをされて、なんてかわいそうだと思いました。今は日本では戦争はなく不自由なくくらせていています。被爆者や亡くなつた人たちのことを知り、この先も平和にくらせることを願っています。